

## 一般社団法人「国際教育研究コンソーシアム」

### <2023 年度事業報告>

2023 年度は、主としてトヨタ財団助成事業、国際教育夏季研究大会 (SIEJ) 2023 に取り組んだ。

#### I. トヨタ財団助成事業 (2023 年度の取り組み)

##### <成果・発見など>

2023 年度において行った以下 2 件の調査分析では、在住外国人のキャリア形成にかかわる課題とニーズ分析を定量的に行ってきた。

##### A) 難民認定申請者の学修歴資格と就労に関する分析

- ① 調査対象者の多くが高度人材相当程度の資格・技能・学歴を持っている。
- ② にもかかわらず、この資格・技能・学歴を活用できるような仕事に就いていない場合が多い。
- ③ 上記②には難民認定申請者特有の事情が関わっている。

##### B) 在日ネパール人の学修歴資格と就労に関する調査

- ① これまでの調査で、215 名のネパール人から回答があったが、約 77% の回答者が自分の学歴や資格と仕事がマッチしていると答えている。
- ② 「良くマッチしている」と「マッチしている」に共通する回答については、大学や専門学校で学んだ分野を直接仕事に活かしていると説明するケースが目立つ。
- ③ 在留資格をみると、高度人材として滞在しているネパール人の数が多いため、その方々が高い日本語能力を持っていると考えられる。

この調査結果においては、定性分析が不十分なため、2023 年度に続き、2024 年度においても在留外国人のキャリアにかかわる個別インタビューを実施する。

また、本プロジェクトが開始された 2021 年から比べると、特定技能 1 号、特定技能 2 号という在留資格を持つ外国人が増え続けており、特定技能 14 業種では一定の評価基準が確立されようとしている。ただ、それ以外の分野や業種では、国際的に通用するような資格基準に基づいて外国籍の方々の資格・学歴を評価する手法が日本で確立しているとはいえない。本プロジェクトが目指す「日本型 NQF」を活用した FCE (外国学歴評価: Foreign Credential Evaluation) を日本で運用していくことの意義がより高まったと考えられる。

##### <今後の展望>

本プロジェクトは、個別ヒアリングと提言の準備が遅れたため、2024 年度末を目標として期間を延長し、アクション・プラン、政策提言を行っていく予定で

ある。外国人材が自己の学修歴資格を的確に評価してもらえるような社会インフラの一環として、合理的に履歴を評価する手法についても確立していく。

また、ユネスコによる東京規約（正式には「高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約」）に基づいて、部分的な修学歴、非伝統的な学習形態によって得られた学修歴についても適格に認証しうる体制を構築していかなければならない。たとえば、ウクライナからの避難民として学生を受け入れる場合、本国で履修した科目の認定を前提に編入学を認める方針を明示している大学は非常に少ない。日本語能力の問題など編入学への壁があることを考慮しても、学修歴の単位認定については東京規約の理念に基づき、国際編入が容易となるようなシステムづくりが求められる。この点に関して、ウクライナ学生の受け入れを推進している一般社団法人パスウェイズ・ジャパンの要請に応じて、セミナーを実施するなど、情報提供をおこなってきた。何らかの事情で高等教育機関を中退している在留外国人に対しても、同じように学習歴を的確に評価することが求められている。

#### <関連する取り組み>

本プロジェクトに直接のテーマではないが、本プロジェクトの関係者は、外国人材ならびに外国ルーツ児童、学生などのキャリア形成の環境改善に向けた取り組みを強化している。本プロジェクトを契機として、外国ルーツ生の大学進学をサポートしていくことが重要である、という認識をメンバー間でも共有することができた。その結果として、代表者の所属大学で「外国ルーツ生特別入試」を奨学金付きで行うことができたほか、特別入試に関連して以下のような波及する取り組みが行われている。

- ◇ 10月3日の日本経済新聞への記事掲載
- ◇ 10月13日の読売新聞地方版夕刊に掲載
- ◇ イベント名「外国ルーツ生のための高校および大学進学・進路ガイダンス主催者交流会 in 関西」  
2024年1月21日（日） 13時から17時まで  
於：関西国際大学 神戸山手キャンパス

#### <ホームページ更新その他>

本プロジェクトのホームページ(<http://gccpj.recsie.or.jp/>)の更新をおこなった。インターンによるインタビュー記事などを掲載している。

## II. デジタル学修歴証明書ソフトウェア・サービス事業

RECSIEは、2020年4月以降、学修歴証明書のデジタル化に向けた実証実験の

取り組みを進めたが、事業法人への組織変革が進まなかった等の理由から 2021 年 11 月 17 日開催の臨時理事会において、本ソフトウェア・サービス事業の関与を調印済みの契約上の義務履行に留め、できるだけ早く事業から退出できるように関係者に働きかけることを決議した。主要な関連機関であるデジタルー社、国際基督教大学、芝浦工業大学に働きかけ、2024 年 5 月 8 日に RECSIE とデジタルー社の 2020 年 10 月締結の提携契約の終了合意が成立するところとなり、デジタルー社は国際基督教大学、芝浦工業大学との直接契約に移管し、将来の日本の大学顧客についても同様となる。これにより、RECSIE のソフトウェアサービス事業からの撤退が執行完了した。

ただし、機密情報非開示義務及び知的所有権の条項については、今後も存続するため、引き続き、同2条項に関わる RECSIE の管理を継続していく必要がある。

### III. 国際教育夏季研究大会 (SIIEJ) 2023

国際教育夏季研究大会 (SIIEJ) 2023 は、2023 年 7 月 20 日、21 日に東北大学で開催され、過去最高の 241 名が会場参加された。これに加えて、約 120 名の方がオンラインで参加しているので、総数で 360 名を超える参加を得ることができた。大学の垣根を越えて国際教育にかかわる専門的知見の共有や意見交換を目指して開催してきたが、大会テーマ「国際教育のプロのネットワーク形成を目指して」に基づいて多面的な情報交換、ディスカッションを行うことができた。詳細報告は以下にまとめる。

大会テーマ:国際教育のプロの人的ネットワークの再構築を

実施日 2023 年 7 月 20 日(木)・21 日(金)

会場:東北大学片平キャンパス・川内キャンパス

主催 一般社団法人 国際教育研究コンソーシアム(RECSIE)

共催 大学の国際化促進フォーラム・東北大学・東洋大学(協議中)・関西国際大学

後援 文部科学省・Association of International Education Administrators (AIEA)・UMAP 国際事務局・特定非営利活動法人 JAFSA(国際教育交流協議会)・一般社団法人 大学行政管理学会・NPO 法人学校経理研究会・大学マネジメント研究会・留学生教育学会(JAISE)・BRIDGE Institute・The International Academic Forum (IAFOR)・一般社団法人海外留学協議会(JAOS)・日本認定留学カウンセラー協会(JACSAC)

**7月20日 午後** オープニング・イベント

主催者・開催校挨拶

文部科学省「国際教育交流における当面の課題」

登壇者:文部科学省高等教育局参事官 小林洋介

「東北大学の国際化の推進について」

登壇者：山口昌弘

特別パネル・セッション「国際教育のプロの人的ネットワークの再構築を」

ゲスト・スピーカー

近藤祐一(インカーネイトワード大学 国際アドミッション アジア担当)

横山匡(一般社団法人 JAOS 評議員、アゴス・ジャパン代表取締役)

ファシリテーター

堀江未来(立命館大学国際教育推進機構 教授、立命館小学校・中学校・高等学校  
代表校長)

懇親会・全体交流会

## **7月21日午後**

特別セッション II 13:00-15:00

「大学の国際化促進フォーラム」特別セッション 司会 **Facilitator**:フォーラム代表幹  
事校(東北大学)

登壇者：池田潤

「SGU 事業の成果と今後の国際化政策の方向性について」

登壇者：小林洋介

「JV-Campus のデジタルバッジとマイクロレデンシャル規格に関する取り組みの進  
捗報告」

登壇者：大庭良介、池田佳子

「ジョイント・ディグリー・プログラムと大学の国際化」

登壇者：安高啓朗

「留学生のキャリア形成と地域定着を目的としたオープンバッジシステムの導入 ～北  
陸での事例紹介とさらなる展開に向けて～」

登壇者：佐藤智哉

**20日午前、21日午前、21日15時以降**に4つのワークショップ(3時間)、セッション  
(80分)を実施した。

## **Workshop A**

**09:00-12:00**

留学交流とメンタルヘルス

登壇者:大西晶子、小島奈々恵

参加人数:31名(対面)

### Workshop B

09:00-12:00

国際化は誰のために、何のために進めるのか？－国際化評価指標から考える－

登壇者:渡部由紀 太田浩

参加人数:20名(対面)

### Workshop C

学生と共に創る、魅力ある「国際共修」

登壇者:末松和子、高橋美能、渡部留美、米澤由香子、中野遼子、小嶋緑

参加人数:25名(対面)

### Workshop D

学生のグローバル力を伸ばす、留学アセスメントテストの活用事例

登壇者:阿部仁、渡部由紀、星洋

参加人数:26名(対面)

### Session 1

激変する日本語教育の最新事情と日本語学校からの大学進学

登壇者:白石勝己、谷一郎、二子石優

参加人数:22名(対面)

### Session 2

大学は留学をめぐる格差にどう向き合うか－国際教育交流担当者の役割を考える

登壇者:太田知彩

参加人数:32名(対面)

### Session 3

なぜ、今、グローバル・シチズンシップ育成のための変容的教育が必要なのか

登壇者:辰野まどか、木村大輔

参加人数:19名(対面)

### Session 4

ポストコロナ禍における大学間国際プログラムの再構築と未来への展望

登壇者:近藤佐知彦、末松和子、仙石祐、中野遼子、池田佳子、櫻井勇介

参加人数:60名(対面)

### Session 5

海外派遣留学の危機管理

登壇者:川瀬千恵美、鳥山直子

参加人数:27名

### Session 6

次世代型実践としての「ブレンデッド・モビリティ」ーオンライン国際教育実践とモビリティの有機的配合を考える

登壇者:池田佳子、サジャッド・プールオミッド

参加人数:27名(対面)

### Session 7

大学とパートナー団体との“外部連携”

登壇者:山本稚子、大橋英徳、藤本実千代

参加人数:19名

### Session 8

AIと大学国際化分析

登壇者:柳浦猛

参加人数:33名

### Session 9

日本の留学生受入れに関する政策的課題:現状と展望

登壇者:太田浩, 星野晶成

参加人数:45名(対面)

### Session 10

世界展開力強化事業でできることー構想から活用までー

登壇者:洪光、高橋清隆、小嶋緑、中野遼子

参加人数:23名(対面)

### Session 11

留学・国際プログラムのアセスメント・PDCA・教育的介入ーBEVI利用大学の事例紹介ー

登壇者：西谷元、石橋有紀、上杉裕子、ジョージ・マイケル・ヒギンボサム、高城宏行、  
木村かおり、植村友香子、小早川裕子、比留間洋一、菅原靖、田北冬子  
参加人数：28名(対面)

以上